

2025 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	クリエイティブ・メディア研究センター
---------	--------------------

I．研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。

2025 年度、クリエイティブ・メディア研究センターは、メディア、文化、芸術、映像、デジタル技術、ポピュラー文化、文化産業をめぐる研究を学際的に推進し、研究成果の発信と学内外の研究交流の充実に取り組んだ。本センターでは、文化とメディアの変容を社会的・産業的・技術的文脈の中で捉えることを基本方針とし、研究会、公開企画、共同研究、国内外研究者との交流を通じて、現代の創造的実践とメディア環境を多角的に検討した。

具体的には、映像文化、デジタルプラットフォーム、コンテンツ産業、文化政策、クリエイティブ産業、ファン文化、アジアにおける文化流通等に関する研究を進め、各構成員がそれぞれの専門領域において論文、著書、学会報告、講演、研究会報告等の成果を発表した。また、若手研究者、大学院生、客員研究員を含む研究ネットワークの形成にも努め、研究テーマを共有する場を継続的に設けることで、個別研究の深化と共同研究の可能性を広げた。

本年度の活動においては、従来のメディア研究・文化研究の蓄積を踏まえつつ、配信サービス、アルゴリズム、グローバルなコンテンツ流通、文化労働、創造産業の制度的変化など、近年重要性を増している課題への対応を進めた。これにより、文化とメディアをめぐる今日的課題を、理論的・実証的・国際的な観点から検討する研究基盤を強化することができた。

以上のように、2025 年度は、センター構成員による研究成果の蓄積と発信に加え、学内外の研究者との連携を通じて、クリエイティブ・メディア研究センターの研究活動を継続的に展開した年度であった。今後も、メディアと文化をめぐる社会的変化を的確に捉え、国際的な研究交流と若手研究者の育成を含めた研究拠点としての役割をさらに発展させていく。

Ⅱ. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2026 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割		氏名	所属	職位
センター長		大山 真司	国際関係学部	教授
運営委員		大島 登志一	映像学部	教授
		北野 圭介	映像学部	教授
		北村 順生	映像学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)		望月 茂徳	映像学部	教授
		竹村 朋子	映像学部	准教授
		宋 基燦	映像学部	教授
		福間 良明	産業社会学部	教授
		飯田 豊	産業社会学部	教授
		松島 綾	産業社会学部	教授
		藤嶋 陽子	産業社会学部	准教授
		近藤 和都	産業社会学部	准教授
		Thouny, Christophe	グローバル教養学部	准教授
		ROTH, Martin	先端総合学術研究科	教授
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員			
	補助研究員・リサーチアシ スタント			
	大学院生	Zhang, Jiayi	国際関係研究科	博士課程後期課程
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生・ 博士前期課程院生等)				
客員協力研究員		KACSUK Zoltán	Stuttgart Media University, Germany (ドイツ・シュトゥットガル トメディア大学)	研究員
		STEINBERG Marc	Professor of Film Studies in the Mel Hoppenheim School of Cinema, Concordia University, Canada (カナダ・コンコーディア大学, メルホッペンハイム スクール オブ シネマ) 大阪産業大学経済学部	教授
		CABANA ROJAS Isabel Margarita	衣笠総合研究機構 クリエイティブ・メディア研究 センター	客員研究員

	BELINSKAYA Yulia	St. Pölten University of Applied Sciences (STPUAS), Institute of Creative Media/Technologies, St. Pölten, Austria.	Researcher,
	LOLLI Dario	Japanese and Visual Culture, Durham University, School of Modern Languages and Cultures (ダラム大学現代言語文化学部 日本語/視覚文化学科)	Assistant Professor (助教授)
	TERRADES Minerva	Institut Alexandre Deulofeu, Spain	Japanese teacher, English teacher,
	EIVILER Kristina	URPP Digital Religion(s) at University of Zurich, Switzerland; JSPS Postdoctoral fellow at Shibaura Institute of Technology (スイス・チューリッヒ大学; 日本学術振興会)	ポストドクター; 特別研究員
	門前 美樹	衣笠総合研究機構 クリエイティブ・メディア研究センター	客員研究員
	DUCKWORTH Jonathan	School of Design, College of Design and Social Context, RMIT University, Australia (オーストラリア・RMIT 大学 デザイン・社会背景分野 デザイン学部)	教授
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)			
センター構成員 計 24 名 (うち学内の若手研究者 計 1 名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください(2026 年 3 月 31 日時点)。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	大山 真司	クールジャパンってほんとうにクールなの	共著	2026 年 3 月	基礎ゼミ メディアスタディーズ〔第2 版〕	石田 佐恵子 ,岡井 崇之	
2	北野 圭介	映画研究ユーザーズ・ガイド	単著	2025 年 7 月	人文書院	北野圭介	1-227
3	松島 綾	ポストヒューマン時代のコミュニケーション学——モノと主体の関係を問い直すための視点と事例	共編者（共編著者）	2025 年 5 月	ナカニシヤ出版	編著者：石黒 武人, 柿田 秀樹, 松島 綾, 松本 健太郎, 中西 満貴典	113-122
4	藤嶋 陽子	雑誌利用のメディア社会学：文化を可能にする「工夫」	分担執筆	2025 年 6 月	ナカニシヤ出版	永田 大輔・近藤 和都 [編]	1-1
5	藤嶋 陽子	「ありのまま」の身体: メディアが描く私の見た目	単著	2025 年 6 月	青土社	藤嶋陽子	0-208
6	近藤 和都	清單：信息可視化的文化技艺与动画体验的变迁（「アニメージュとリスト——情報の可視化をめぐる文化技術とアニメ経験の変容」『雑誌利用のメディア社会学——文化を可能にする「工夫」』の中国語訳）	共著者	2025 年 11 月	ナカニシヤ出版	永田大輔・近藤和都	

7	近藤 和都	「見る場所」のメディア考古学——鳥取から日本映画史を描き重ねる	contributor	2025 年 7 月	小取舍	佐々木 友輔,杵島和泉,Clara	
8	近藤 和都	雑誌利用のメディア社会学: 文化を可能にする「工夫」	joint_editor	2025 年 6 月	ナカニシヤ出版	松永 伸太郎,池上賢,董 鎧源,山口 敬大,高艸 賢,森下 達,山中 智省,加藤 穂香,山森 宙史,小川 豊武,安 ウンビョル,妹尾 麻美,彭 永成,日高 良祐,藤嶋陽子,菊池 哲彦,佐藤 彰宣	304

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	大山 真司	The Accidental Soft Power: Lessons (and Anti-Lessons) from Japan	単著	2025 年 11 月	Proceedings of the Korean Association of Public Diplomacy Annual Conference			招聘
2	大島 登志一	非対称インタフェースによるインクルーシブな共創体験の実装と評価	共著	2026 年 2 月	情報処理学会インタラクション2026 論文集	中濱佑太、望月茂徳	1B26, 240-244	査読有 招待無
3	大島 登志一	認知負荷に基づきヒューマンエラーを低減する UI デザイン学習ツール	共著	2026 年 2 月	情報処理学会インタラクション2026 論文集	バスマジュ貴和	1B47, 333-338	査読有 招待無
4	大島 登志一	牽引力錯覚を用いたマルチモーダル映像体験の検討	共著	2026 年 2 月	情報処理学会インタラクション2026 論文集	近藤圭、望月茂徳	3A15, 969-971	査読有 招待無
5	大島 登志一	拡張現実感技術を用いた気象現象学習教材の研究	共著	2026 年 2 月	情報処理学会インタラクション2026 論文集	Wang Dayi, 望月茂徳	3B47, 1112-1117	査読有 招待無
6	大島 登志一	視点切り替えを通じた食物連鎖の理解のためのインタラクティブ教材	共著	2026 年 2 月	情報処理学会インタラクション2026 論文集	岡田美苑	3C56, 1163-1168	査読有 招待無
7	大島 登志一	空中像と超音波触覚によるオノマトペの体験拡張の研究	共著	2026 年 2 月	情報処理学会インタラクション2026 論文集	林美奈	3D60, 1186-1191	査読有 招待無
8	望月 茂徳	共創的な防災体験を導く車椅子型メディアの開発と実践 (査読有)	共著	2026 年 3 月	立命館映像学 19	望月茂徳、中濱佑太、門前美樹、檜皮一彦、児玉依美奈	27-40	査読有 招待無
9	飯田 豊	視覚と触覚：ポスト「映像博」の模索	単著	2025 年 12 月	万博学／Expo-logy 思文閣出版		(4):8-13	査読無 招待無
10	飯田 豊	大阪・関西万博をメディア・イベント史から振り返る ～放送は全体像を俯瞰し得たか	単著	2025 年 12 月	民放 online 日本民間放送連盟			査読無 招待有
11	飯田 豊	「プロパガンダ＝悪」の前提を脇に置く：マスメディアの技術特性を超えた洞察 (ジャック・エリュール『プロパガンダ』(春秋社、2025 年) 書評)	単著	2025 年 10 月	週刊読書人		(2025 年 10 月 24 日):4-4	査読無 招待有
12	飯田 豊	根岸貴哉『野球のメディア論：球場の外でつくられるリアリティー』(青弓社、2024 年) 書評	単著	2025 年 8 月	立命館アジア・日本研究 学術年報 立命館アジア・日本研究所		(5):183-184	査読無 招待有

13	飯田 豊	国家／都市／農村：「昭和のテレビ」の考古学	単著	2025 年 8 月	現代思想 青土社		(2025 年 8 月):164-175	査読無 招待有
14	飯田 豊	過去と現在、そして未来との対話:AI ユートピアの裏返しのような陰影を湛えて (ユヴァル・ノア・ハラリ『NEXUS 情報の人類史 上・下』)	単著	2025 年 5 月	週刊読書人 河出書房新社 書評		(2025 年 5 月 23 日):3-3	査読無 招待有
15	藤嶋 陽子	「障害」からメディア研究を問い直す	共著	2026 年 3 月	メディア研究 108	近藤 和都, 藤嶋 陽子, 飯田 豊	3-17	査読無 招待有
16	Martin Roth	Introducing Metadata Analytics: Harnessing the Power of Data from Online Fan Communities for Research on Japanese Popular Visual Media	共著	2025 年 5 月	Mechademia	Roth, Martin & Zoltan Kacsuk	17(2),pp.13-31	査読有 招待有
17	Martin Roth	Content Territorialities: a Catalogue-Based Study of 'Global' SVOD Platforms in East Asia	共著	2025 年 9 月	Asiascape: Digital Asia	Remy Delanaux, Yu-Kei Tse, Martin Roth	12(1-3),pp.303-333	査読有 招待無
18	宋 基燦	Repatriation and Reconciliation: Korean Victims of Forced Labor in Japan and David Plath's Documentary So Long Asleep	共著	2025 年 5 月	Studies on Asia The Midwest Conference on Asian Affairs	鄭 炳浩 宋 基燦	10(1),pp.90-113	査読無 招待有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	大山 真司	Creative Frictions: Shueisha, Webtoon and the Cultural Politics of Automation	2025 年 5 月	Inter-Asia Perspectives on Automated Decision-Making and Society. The ARC Centre of Excellence for Automated Decision-Making and Society, University of Tokyo&Online	
2	大山 真司	Media Studies Graduates Need Not Apply? Media Education and Creative Justice in Japan's Creative Industries Recruitment Practices	2025 年 9 月	The Fourth EAJS (European Association for Japanese Studies) Conference in Japan, Tohoku University, Sendai, Japan	
3	大山 真司	Recruitment and Creative Authority in Japan's Manga and ACG Ecosystem	2025 年 11 月	The 14th International Symposium on ACG Culture and Technology & Bahamut Paper Award, Ritsumeikan University, Kyoto, Japan	
4	大山 真司	The Accidental Soft Power: Lessons (and Anti-Lessons) from Japan	2025 年 11 月	The Korean Association of Public Diplomacy Annual Conference, Hanyang University, Seoul, Korea	
5	大島 登志一	非対称インタフェースによるインクルーシブな共創体験の実装と評価	2026 年 3 月	情報処理学会シンポジウム INTERACTION 2026、学術総合センター (東京都千代田区)	中濱 佑太、望月 茂徳
6	大島 登志一	認知負荷に基づきヒューマンエラーを低減する UI デザイン学習ツール	2026 年 3 月	情報処理学会シンポジウム INTERACTION 2026、学術総合センター (東京都千代田区)	バスマジュ 貴和
7	大島 登志一	牽引力錯覚を用いたマルチモーダル映像体験の検討	2026 年 3 月	情報処理学会シンポジウム INTERACTION 2026、学術総合センター (東京都千代田区)	近藤 圭、望月 茂徳
8	大島 登志一	拡張現実感技術を用いた気象現象学習教材の研究 (査読あり)	2026 年 3 月	情報処理学会シンポジウム INTERACTION 2026、学術総合センター (東京都千代田区)	Wang Dayi, 望月 茂徳
9	大島 登志一	視点切り替えを通じた食物連鎖の理解のためのイ	2026 年 3 月	情報処理学会シンポジウム INTERACTION 2026、学術総合セン	岡田 美苑

		インタラクティブ教材		ター（東京都千代田区）	
10	大島 登志一	空中像と超音波触覚によるオノマトペの体験拡張の研究	2026 年 3 月	情報処理学会シンポジウム INTERACTION 2026、学術総合センター（東京都千代田区）	林 美奈
11	Toshikazu Ohshima	AMI-NOOH. The Amino Acid Learning System by using Mixed Reality	2025 年 4 月	Laval Virtual 2025, #ReVolution demo, Laval, France	Haruka Nambu
12	望月 茂徳	インクルーシブな体験を促す複数人参加型インスタレーションの制作	2025 年 9 月	第 30 回日本バーチャルリアリティ学会大会、立命館大学大阪いばらきキャンパス	中濱 佑太, 望月 茂徳, 大島 登志一
13	望月 茂徳	アレルギー疾患と舌下免疫療法に対する子どもの理解を支援する体験型モバイルコンテンツの開発	2025 年 9 月	第 30 回日本バーチャルリアリティ学会大会、立命館大学大阪いばらきキャンパス	門前 美樹, 望月 茂徳
14	望月 茂徳	Visualizing the Immune Mechanisms: Interactive Storytelling for Pediatric Allergy Engagement（査読有）	2025 年 12 月	SIGGRAPH Asia 2025, Hong Kong Convention and Exhibition Centre, Hong Kong	Miki Monzen, Shigenori Mochizuki, Toshikazu Ohshima,
15	望月 茂徳	非対称インタフェースによるインクルーシブな共創体験の実装と評価	2026 年 3 月	第 30 回 一般社団法人 情報処理学会シンポジウム INTERACTION 2026, 立命館大学大阪いばらきキャンパス	中濱 佑太, 望月 茂徳, 大島 登志一
16	望月 茂徳	牽引力錯覚を用いたマルチモーダル映像体験の検討	2026 年 3 月	第 30 回 一般社団法人 情報処理学会シンポジウム INTERACTION 2026, 立命館大学大阪いばらきキャンパス	近藤 圭, 望月 茂徳, 大島 登志一
17	望月 茂徳	拡張現実感技術を用いた気象現象学習教材の研究	2026 年 3 月	第 30 回 一般社団法人 情報処理学会シンポジウム INTERACTION 2026, 立命館大学大阪いばらきキャンパス	WANG DAYI, 望月 茂徳, 大島 登志一
18	飯田 豊	「障害」をめぐるメディア研究の展開	2025 年 6 月	日本メディア学会 2025 春季大会 立命館大学衣笠キャンパス	塙 幸枝, 樋口 麻里, 柴田 邦臣, 田中 瑛, 美馬 達哉, 飯田 豊, 藤嶋 陽子
19	松島 綾	コミュニケーションの条件	2025 年 6 月	日本コミュニケーション学会第 54 回 年次大会 広島修道大学 「コミュニケーションの条件」パネル 司会	
20	Aya Matsushima	Emergence of Anamorphic Rhetoric in the Renaissance: Representation of Soles of the Feet in Andrea Mantegna's "Lamentation of Christ" and Rembrandt's "The Anatomy Lesson of Dr. Deijman"	2025 年 7 月	The 25th Biennial Conference of the International Society for the History of Rhetoric University of Copenhagen, Copenhagen, Denmark	Hideki Kakita
21	近藤 和都	音、身体、メディア——ジョナサン・スターン特集集合評会	2025 年 11 月	『メディアム』第 5 号刊行記念研究会、同志社女子大学今出川キャンパス+オンライン	梅田 拓也, 日高 良祐, 今関 裕太, 永盛 鷹司, 近藤 和都, 藤下 由香里
22	近藤 和都	メディア研究にとっての雑誌研究	2025 年 10 月	共立女子大学文芸学部月例研究集会、共立女子大学、東京都千代田区	
23	近藤 和都	メディア研究にとって流通とはどのような問いか？：メディア空間の存在論に向けて	2025 年 6 月	日本メディア学会春季大会、立命館大学衣笠キャンパス	谷島 貫太, 近藤 和都, 丸山 友美, 柴野 京子

4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	SNS 時代におけるメディアリテラシーの困難と放送事業者への期待	総務省中国総合通信局	2026 年 1 月		放送セミナー2026 in 広島
2	「フジテレビ問題」のメディア論：放送が社会とつながり直すために	東京地区マスコミ倫理想談会	2026 年 1 月		東京地区マスコミ倫理想談会

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	望月 茂徳	展覧会　ぐるぐるまわってみる『車椅子 DJ はじまりの美術館 Ver.』	はじまりの美術館（福島県耶麻郡猪苗代町新町 4873）	2025 年 4 月～2025 年 7 月
2	宋 基燦	Across the Impossible Path: On Death, Reconciliation, and the Legacy of Chung Byung-ho	SEAA-SNU Anthropology 2025 Conference [Shaping Futures: East Asia as Practice](ソウル、ソウル大学)	2025 年 7 月
3	宋 基燦	현월의 「그늘의 집」에 나타난 재일코리안의 '집'에 관하여 玄月の『蔭の棲みか』に現れた在日コリアンの「家」について	立命館大学コリア研究センター・東亜大学共同国際シンポジウム『在日コリアンの「家」はどこなのか?』(釜山、東亜大学)	2025 年 10 月
4	宋 基燦	트라우마를 횡단하는 인류학적 모험 : 재일동포 연구에서 북한 연구까지 トラウマを横断する人類学的冒険：在日コリアン研究から北朝鮮研究まで	韓国文化人類学会 2025 年度秋季研究大会(ソウル、ソウル大学)	2025 年 12 月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	大島 登志一	情報処理学会	インタラクション2026、インタラクティブ発表賞	空中像と超音波触覚によるオノマトペの体験拡張の研究	2026 年 3 月

7. 科学研究費助成事業（科研費）						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	大島 登志一	複合現実技術と実体の融合による医療手技学習システムの開発	科学研究費助成事業 挑戦的研究（萌芽）	2025 年 4 月	2027 年 3 月	分担者
2	飯田 豊	領域横断的な万国博覧会史研究を通じた新しい戦後史叙述の可能性	科学研究費助成事業 基盤研究(B)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担者
3	飯田 豊	現代メディア・イベントとしての万国博覧会史：メディア研究とデザイン研究の視座から	科学研究費助成事業 基盤研究(B)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	代表者
4	竹村 明子	大学生のメディア利用とプレコンセプションケア知識の関連性	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2025 年 5 月	2028 年 3 月	代表者
5	福間 良明	「中年文化」の戦後メディア史に関する歴史社会学的研究	科学研究費助成事業 基盤研究(B)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表者
6	近藤 和都	1970 年代後半から 90 年代初頭のアニメ経験の文化社会学：メディア流通論の観点から	科学研究費助成事業 若手研究	2025 年 4 月	2029 年 3 月	代表者
7	Martin Roth	テイルズ オブ ジャパン：ビデオゲームを通して交差する過去と現代の日本史	科学研究費助成事業 特別研究員奨励賞	2025 年 4 月	2027 年 3 月	代表者
8	Martin Roth	「出来事」を解釈する枠組みとしてのゲーム	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	分担者

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割

1	望月 茂徳	デジタルメディア技術を活用した共創型 体験デザインの研究 ―障害の有無を超え たインクルーシブな共創体験の創出に向 けて―	ひと・健康・未来研究財団研究助成	2025 年 9 月	2026 年 8 月	代表者
---	-------	--	------------------	------------	------------	-----